

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 21 年 10 月 2 日)

為政第二

18 子張 禄を干めんことを学ぶ。子曰く、多く聞きて疑わしきを闕き、慎みて其の
余を言え、則ち尤め寡し。多く見て殆きを闕き、慎みて其の余を行え、則
ち悔寡し。言尤寡く、行悔寡ければ、禄其の中に在りと。

子張が孔子に、「官職に就きたいけれども、どうしたらよろしいでしょうか」と聞きました。

孔子が言いました。「たくさん物事を聞きなさい。知りなさい。その中で自分が疑わしいと感じたものは取り除いて、慎重に、自分で問題ないと思うところを言えば、他人から咎められる事は非常に少なくなる。たくさん物事を見て、自分自身の中であやふやだと思ふところを取り除き、慎重に、残りの疑わしくないと思ったことを行なうようにすれば、後悔は少なくなる。発言した結果として咎めが少ない、行動した結果として後悔が少なければ、自然と官職に就くようになる」

民主党が政権をとりました。そうすると実力者だと思ふところに人が集まる。鳩山さんのところよりも、どうも小沢さんのところに行った人の方が多いようです。長妻さんという方が厚生労働大臣になりましたが、長妻さんは最初、行政刷新の大臣ということで口説かれました。それを長妻さんは、「厚生大臣以外は嫌だ。厚生労働行政に携わらせてもらいたい」と主張しました。その時は厚生労働大臣のポストは仙谷さんに決まっていたらしいのですが、仙谷さんが了承して、変わったわけです。民主党の中で、「長妻はゴネ得である。ゴネれば話が通るのか」という声が出ているようです。

この文句とは、大分違う獵官運動が行われたように感じます。「長妻は年金問題しか知らないで、他の事は分からないから駄目だ」という声が、民主党の中にたくさんあるということをお舩添さんに話をしたようで、一つ一つの問題に対してポイントを細かく教えてもらい、尚且つ、舩添さんの作った年金問題のプロジェクトチームの人脈そのものも引き継いだわけです。ですから長妻さんは、結構したたかな事をやるのではないかと感じました。

論語は書いてある事を現実に当てはめて考えてみると面白い。「言尤寡く、行悔寡ければ」という部分は、一人一人の大臣を見ると、亀井さんは言の咎めがありすぎるだろうし、福島大臣も言の咎めが非常にあるし、行動に対する後悔もこれからたくさん出ると予想で

きます。

19 あいこうと いわ なに な すなわ たみふく こうしこた いわ なお あ こ
哀公問いて曰く、何を為さば則ち民服せんと。孔子対えて曰く、直きを挙げて諸
まが お すなわ たみふく まが あ こ なお お すなわ たみふく
れを枉れるに錯けば、則ち民服す。枉れるを挙げて諸れを直きに錯けば、則ち民服
せずと。

哀公（魯の君主）が孔子に、「どうすれば、国民が私の言う事に素直に従ってくれるでしょうか」と聞きました。

孔子が答えました。「真っ直ぐで正直な人を見いだして、不正をする連中の上におけば、国民は自然と言う事を聞くようになるでしょう。しかし賄賂を簡単に受け取り不正をする人を上に上げて、正しい事をする人達を下に置くようになれば、国民は誰も命令に従わない」

その時代、魯の君主の力が無くなっているの、私腹を肥やす連中ばかりが官僚の上の方にいました。ですから、そこらへんの皮肉も混じっているようです。

現代に照らし合わせてみます。政治家の場合は身の周りの小さな事を一つ一つやればよいと思うのですが、私は非常に不信感が強くなったのは、8月末に総選挙をして、2日間だけ在籍をしたという事で1か月分の給料が全員に出ました。それを返したとか、返納したいと言った人はいないようですから、これはおかしいと思いますし、腹がたちます。こういう場合、民間では2日分の給料しかもらえないのが当たり前です。政治家と民間との常識の差が如実に現れていると感じました。2日しか在籍しないのに、1か月分の給料をもらって平気な顔をしている連中に対して国民が素直に言う事を聞くものか、とこの章を読みました。

20 きこうしと たみ けい ちゅう もつ すず これ い か
季康子問う、民をして敬 忠 にして以て勸ましめんには、之を如何にせんと。
しいわ これ のぞ そう もつ すなわ けい こう じ すなわ ちゅう
子曰く、之に臨むに荘を以てすれば、則ち敬す。孝 慈なれば、則ち忠なり。
ぜん あ ふのう おし すなわ すず
善を挙げて不能を教うれば、則ち勸むと。

季康子が孔子に、「国民が上の人を尊敬し、真心をもって仕事をしていくようにさせるには、どうしたらよいでしょうか」と聞きました。

孔子が答えました。

中身が充実して、それが自然と顔に出てくるような人間は、容貌が正しく、威厳がある。

明治時代の政治家の人は、板垣退助や山縣有朋のように立派な髭をはやしている人が多かったですね。髭であるとか顔つきであるとか、その表情だけでなく人物全体から醸される風貌姿勢の厳粛な雰囲気伝われば、自然と国民は畏れ、かしこまるものである。

官僚や政治家の上の方にいる人達が、自分の親に対して孝行者であって、国民に対して慈愛深い行動をすれば、自然と国民は真心で仕えるようになる。

善人や正直者を抜擢して、無能な人達を懇切丁寧に教えれば、国民は黙っていても自然と良いことを行なうようになる。すべて上の人間の行動次第・考え方次第です、という答え方をしました。

ちなみに「孝 慈なれば」の部分は、前厚生労働大臣の舛添さんは自分の母親を介護したという事で、非常にその宣伝が行き届いていて、舛添さんに対しての国民の注目が、その一点で集まったのだと思っています。

国民が上を尊敬し、真心をもって仕事を一所懸命するという部分は、民主党もだんだんと色々な問題が出てきています。献金問題では、企業から献金は貰っていないと言いながら、労働組合から相当な献金を受けていたわけです。国民の側から見ると、大企業が今、摺り寄ってどんどん献金を増やしていますが、もともと労働組合からたくさん献金を受け取っているのだから、労働組合とは非常に癒着をしているのだらうと思います。特に労働組合に対してどういうことをするか、よくよく見ていなければいけないと感じます。

「之に臨むに荘を以てすれば」の部分は、やっている事が正しくて自然と威厳がある表情、服装・動作・態度になりますが、金色のネクタイや金色の上着は、如何なものかな・・・と余分ですが付け加えて、終了に致します。

有難うございました。